

第9回アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラム開会式

堀井外務副大臣ステートメント

サル・セネガル共和国大統領閣下
ガズワニ・モーリタニア・イスラム共和国大統領閣下
マルティンス・ギニアビサウ共和国首相閣下
御列席の皆様

第9回ダカール国際フォーラムの開会に際し、日本政府を代表して御挨拶申し上げます。始めに、サル大統領を始めとするセネガル政府の皆様による本フォーラムの開催に向けた御尽力に敬意を表します。また、日本が、第1回目以降継続してこの重要なフォーラムの開催を支援していますことを誇りに思います。

日本は、1993年、冷戦終結直後に国際社会のアフリカへの関心を高めるためにTICADを立ち上げました。以来、一貫してアフリカ開発における「アフリカのオーナーシップ」と「国際社会のパートナーシップ」の重要性を提唱し、今日ではそれが国際社会の基本的な開発理念となりました。

そしてTICADが30周年を迎えた現在、アフリカは国際社会における主要なプレーヤーとして、その重要性と発言力を高めています。そして、若い人口や豊富な資源といったダイナミックな成長へのポテンシャルが、これまで以上に世界の注目を引きつけています。

一方で、イスラエル・パレスチナ情勢の悪化を始め、国際情勢は激動を続けています。アフリカは、ロシアによるウクライナ侵略による食料・エネルギー価格の高騰や気候変動などの様々な課題の影響を強く被り、こうした要因が、社会の不安定性を助長し、テロや紛争を呼び起こしていることも強調されねばなりません。

日本は、今般のサヘル地域情勢に対応するため、民主主義の強固な信念に基づき、ECOWASを中心に一体となって問題の解決に向けて努力するアフリカの取組に敬意を表し、これを後押ししています。岸田総理は、本年5月にアフリカ各国を歴訪した際、サヘル地域とギニア湾沿岸諸国の平和と安定に寄与し、持続可能な成長を促進することを目的として、今後3年間で、約5億ドルの支援を行っていくことを表明しました。日本は、地域の安定化に貢献すべく、西アフリカ諸国と協力してきています。日本の言葉には具体的な行動が伴います。

私は、散発する軍事的政権奪取、紛争、テロ、暴力的過激主義等、アフリカが抱える多くの困難を、アフリカ自身の英知を結集させることで乗り越えられることを確信しています。ただ、日本の協力がお役に立てるなら喜んで協力します。日本は、アフリカ及びグローバルな課題について、アフリカと共に考え、解決策を共創するパートナーでありたいと思います。日本が実施しているアフリカ各地のPKO訓練センターに対する支援は、共創に向けたアフリカの「人」への投資です。

日本は、本年のG7議長国として、更に、本年及び明年の国連安保理の非常任理事国として、アフリカ諸国の声に耳を傾けながら、いかにより良い解決策をもたらせるかという観点から、議論に真剣に取り組んできています。

また、日本は、国際社会におけるアフリカ諸国の役割の増大を踏まえ、様々な国際的な枠組におけるアフリカの代表性の向上を支持しています。一例として、9月のG20ニューデリー・サミットにおいて、アフリカ連合のG20加盟が正式に決定されたことを日本として改めて歓迎します。また、国連安保理は現在の世界の現実を反映すべきであり、日本はアフリカ共通ポジションを支持し、アフリカと共に安保理改革に取り組めます。

御列席の皆様、

日本は、人道状況の改善への一層の貢献を含む人間の尊厳に基づく国際協力、若者を含む人への投資を始め長期的視野に立った日本らしいきめ細やかな取組を引き続き行っていく考えです。

来年東京で開催するT I C A D閣僚会合、そして2025年に横浜で開催するT I C A D 9を見据えつつ、アフリカの平和と安定の達成に向けたアフリカの皆様との連携・協力を一層推進していきます。

ありがとうございました。

(了)